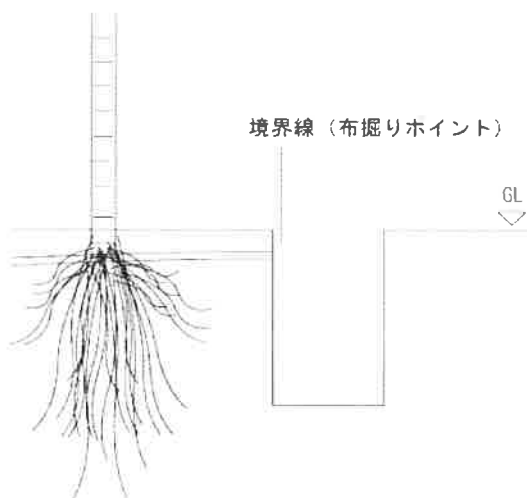


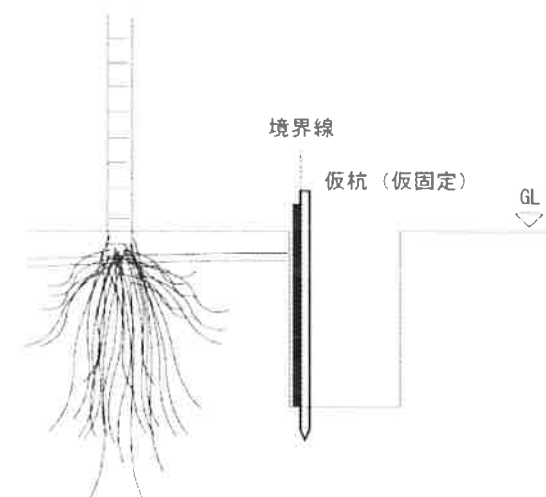
【施工手順1】シート設置場所の特定

水系・ライン引き等で通りを出し布掘りする。



【施工手順2】布掘り

布掘りは巾70cm～1m(人が入れる程度のスペース)で深さを約1mを推奨します。布掘り時に境界外にはみ出た地下茎の伐根処理は行なってください。

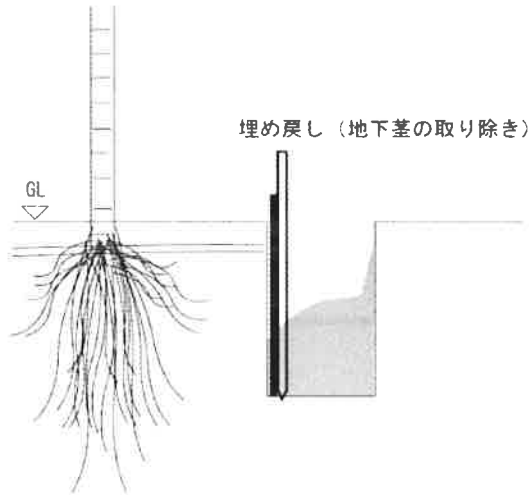


【施工手順3】設置・仮固定

シートの設置中、仮杭を地面に打ち込みシートが倒れないように固定する。

※この場合、シートに釘などで穴を開けないで下さい。杭のピッチは1m～2mピッチに打ち込んでください。

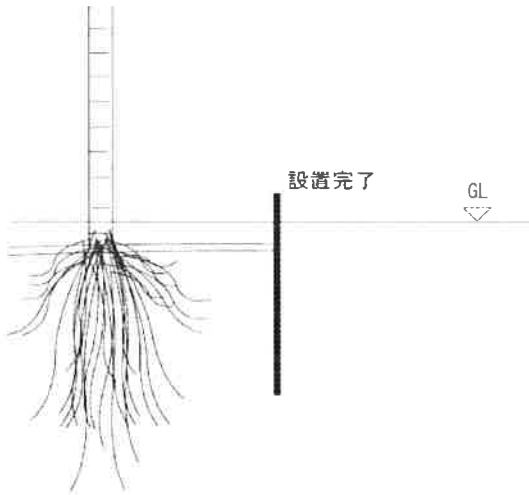
仮杭にGLより5cm上部に墨打ちを行い、水平を保ち、埋め戻しの際に高さ調整をしてください。



【施工手順4】埋め戻し

・埋め戻しの際、掘返した土壌の中に地下茎が混ざっている場合、完全に取り除いておく。
(地下茎をそのまま埋め戻してしまうと、生長が新しく始まってしまいます。)

・ある程度、埋め戻しながら、人力により土壌を踏み固め、仮杭を徐々に上げていく。



【施工手順5】転圧

・埋め戻した土を転圧する。

※密度が低く養分が均等に行渡っているため、地下茎の活動制限がかからずシート接触後、地下茎が地下へ侵出する恐れがあるので、ランマ・転圧機による機材で、土壌密度を高くする。

・転圧後、施工完了となる。

注意事項

- ・竹の特性を考慮しGLから5cm～10cm程度、シートの高さ設定が重要な点となる。
- ・埋設時の設定寸法の許容範囲は、タテ0～30mm／ヨコ0～100mm以内とする。
- ・1箇所接続部で、裏表2箇所を専用接続テープによる処理を行なう。
未処理では、ラップ部に接触した後、先端部が鋭い為、地下茎が外部へ侵攻する恐れがある。
- ・布掘り幅は、施工が十分に行える余裕が必要である。(75cm以上とする)
- ・ラップは1m以上とする
- ・シート敷設後の転圧作業
- ・シートの仮固定
- ・仮固定杭は、2m間隔がもっとも施工性が良い